

九州市光工業で大型設備投資を実施

大手自動車部品メーカーの市光工業株式会社（本社：神奈川県伊勢原市板戸 代表取締役社長：サワー ハイコー）は、100%生産子会社である九州市光工業（大分県中津市）において大型設備投資を進めています。

九州域内では今後も自動車生産の拡大が続くと見込まれます。そこで、新規受注の獲得を睨み、2020 年度から 2021 年度にかけて総額約 12 億円の設備投資を実施し 9 月操業開始予定です。この投資により最新技術の射出成形機が導入され、エネルギー消費を削減しながら生産を増やすことが可能になります。また、これに伴い 2021 年度に約 70 名の追加雇用も予定しています。（2021 年 1 月現在：従業員数 347 名）

なお、九州市光では、2014 年と 2016 年に実施した増設工事により、ヘッドランプ並びにリアコンビネーションランプの生産能力を増強しており、軽自動車から高級車まで幅広いセグメント向けの製品を取り揃え、主に九州から本州西側地域のカーメーカーに製品を納入してまいりました。同社の売上高（2020 年度：91 億円）と人員はともに 3 年前から 2 倍以上に増加するなど成長を続けており、今回の投資でさらに生産能力が向上することになります。

<九州市光工業とは>

九州市光工業は「ICHIKOH」グループ国内第 4 の製造拠点として大分県中津市に 1983 年に設立されました。国内向け自動車用ヘッドランプやテールランプの製造を担い、堅調に売り上げを伸ばしています。

立地する北部九州エリアは、“カーアイランド九州”と呼ばれる国内有数の自動車生産拠点であり、この地の利を活かして九州をはじめとする西日本エリアの自動車メーカーへの納入拡大を図ってまいります。

(九州市光写真)



(参考) <市光工業とは>

市光工業株式会社は、1903年創業以来、自動車用ランプとミラーの純正部品専門メーカーとして、国内主要自動車メーカー及び、海外主要自動車メーカーに製品を納入してきました。

1932年には初代ダットサン（日産）ヘッドランプを装着し、日本初のプロジェクターヘッドランプや世界初の電動格納ミラー、水銀フリーHIDヘッドランプやLEDヘッドランプなど独自の製品開発を主体的に行ってきました。

2000年、仏ヴァレオ社と照明機器部門でアライアンス関係を締結し、2017年に同社子会社となりました。仏ヴァレオ社とのシナジー効果を追求すべく、LEDヘッドランプモジュール、HD（高解像度）ライティング、LED信号灯などの電動化や自動運転に対応した新製品の開発や、スケールメリットを活かした共同調達や共同研究開発による費用の削減、積極的な営業活動によるグローバル市場での追加のシェア獲得、顧客基盤の拡大や地理的な相互補完関係などの強化を進めております。

また、2019年6月から神奈川県厚木市で新工場が稼働開始いたしました。厚木新工場では、競争力向上による将来のビジネス成長を図るべく、リーン生産方式や生産の自動化に加え、生産効率を高めるための業務のデジタル化など、あらゆる最新の生産技術を導入しております。

<本件に関するお問い合わせ先>

市光工業株式会社経営企画室 室長 高森

TEL : 0463-96-1442

URL : <http://www.ichikoh.com/>